



水鳥のしぐさ調べ

活動のねらい ●水鳥の行動から推察しながら、水鳥のくらしについて考えることをとおして、水鳥と琵琶湖との関わりについての理解を深め、琵琶湖が水鳥にとって住みやすい環境になっていることがわかる。	【時期】 11月～3月
	【場所】 しぐさ観察 今津、長浜、彦根、琵琶湖大橋、大津の湖岸 しぐさについての学習 学習室、活動室
	【時間】 しぐさ観察 約5分～約20分 しぐさについての学習 約30分
	【準備物】 しぐさ観察…………… 双眼鏡、フィールドスコープ、しぐさ観察シート しぐさについての学習…水鳥の掛軸型教材またはプレゼンテーション教材、ワークシート、筆記用具

主な活動の流れ

事前学習

- 琵琶湖の生き物について学習する。(副読本「あおいびわ湖」の活用)
- 身近な地域には、どんな鳥がいるか野外で観察したり、本やインターネットで調べたりする。

びわ湖で水鳥は何をしているのだろうか？

① しぐさ観察

- 湖岸で水鳥のしぐさ観察をする。
 - 見つけたしぐさをシートに記録する。
 - ・水鳥の種類(名前)ではなく、しぐさに注目して観察することをおさえる。
 - ・必ずしも双眼鏡等を使わなくてもしぐさを見つけられる。
 - ・何をしているしぐさかを考えながら観察させる。
- ※水鳥のしぐさ観察は、水鳥の種類や数を調べるものではないため、水鳥の行動が判別できれば、どの寄港地でも実施可能である。
- ※水鳥が安全に観察できる場所を下見して、決めておく。水鳥は常に同じ場所にいるわけではなく、移動するため、下見の際にポイントをいくつか選んでおくといよい。
- ※事前に船内においてフィールドスコープや双眼鏡の使い方について、説明したり、実際に持たせて指導したりしておく、スムーズに観察ができる。



フロートイングスクール

② しぐさについての学習

- 水鳥のしぐさについてのお話を聞く。
 - ・水鳥の掛軸型教材を用いて読み聞かせを行う。
 - ・しぐさ観察時の気づきや疑問をワークシートにまとめ、発表させる。
- ※水鳥の行動から推察しながら、水鳥のくらしについて考えることをとおして、水鳥と琵琶湖との関わりについての理解を深め、琵琶湖が水鳥にとって住みやすい環境になっていることに気づかせる。



事後学習

- 水鳥や琵琶湖の環境について、さらに疑問を感じたことについて調べたり、学習のまとめとして新聞づくりを行ったりする。